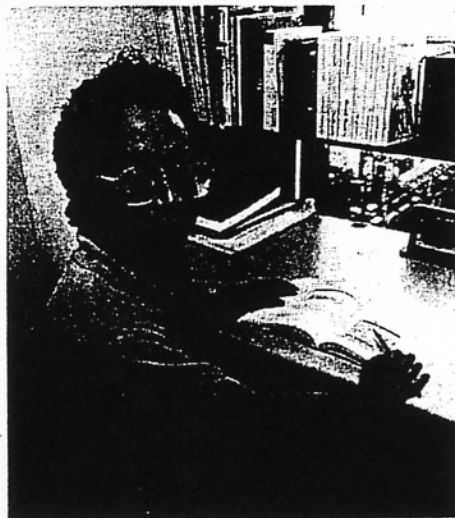


任福継さん



四月に広島市立大学情報科学部助教授に就任した任福継さん(35)。九三年五月に日本にいる中国人科学者の集まりである「在日中国科学技術者連盟」を設立。日本国内だけでなく、中国の学者とも交流したりするのが目的だが、メンバーに就職先を紹介することも。

四川省の出身で、中国では北京郵電大学、北京大学

院などで新世代コンピュータを研究した工学博士。中国科学界の頭脳が集まる中国科学院博士課程で論文を執筆するなど、精力的な研究活動を行っていた。

研究は 世界が舞台

来日したのは八七年。スタンフォード大学、東京大学、北海道大学など日米の大学へ

留学申請の手紙を出し、すべての大学が受け入れてくれたが、いち早く任さんを招いた北大へ。夢は多言語機械翻訳の実用化。産業界をよ

く知り、国際的な研究環境を整えることが不可欠だ。このため、四年間の研究の後、いったんコンピュータソフトウェア会社「CSK」に入社し、再び広島市立大の研究室に。「私は、大連理工大にも研究室を持ち、北京大でも特別講義をしています。さらに、北大、広島市立大、シンガポール国立大、CSK、そしてスタンフォード大研究者などの交流を通して、システムを開発し、企業の力を借りながら実用化したい。実現できれば、国際電話も自動通訳で話せまじし、機械のマニユアルの翻訳も自動化されまじす」

こう語る任さんは、将来の活動拠点を限定しない。自分のやりたい研究に最も適した環境を求め、これからも活躍できる場を次々に広げていくことになりそうだ。

「国際化、情報化社会だと
いわれていますが、言

葉の障害を乗り越えてこそ、
本物。そのために多言語機械

翻訳のシステムを開発、実用
化させたい」

